

立春近し。地域の方の心遣いに感謝いたします。 Vol.10

「校内の花だより」を兼ねたこのお便り。11月以来の久しぶりのお便りになります。誠に、ご無沙汰しておりました。

さて、寒さに加え冷たい雨の降る今日この頃ですが、皆さまお変わりなく健康に気をつけられお過ごしでしょうか。国内では緊急事態宣言が再発令され、休日に家で過ごすことの多く、少し窮屈な日々を過ごさなければなりません。前向きな気持ちを失わず、日々児童に明るく接し、卒業式(3/23)、修了式(3/26)まで過ごしていきたいと存じます。

校長室に生けられた、左が水仙(スイセン)。右が蠟梅(ロウバイ)の木です。どちらも今の季節に生命の輝く草木です。因みに水仙の花言葉の一つに「尊敬」があります。また、蠟梅(ロウバイ)の透明感のある黄色い花は甘くさわやかな香りを辺りに漂わせるファンの多い樹木です。ただ実に毒があると言われてるので決して口にしないなど、注意が必要です。



正門の桜の枝と冬の花壇のその後の写真2枚を掲載しました。

青空に映える桜の枝には、固い蕾がたくさんついていました。寒風に耐えることによって3月下旬に見事に花を咲かせてくれることでしょう。また、花壇のビオラ(イエロー・バイオレット)とサクラソウ(白・ピンク色)は、冷え込みや雨によく耐えています。これから先大きく立派に育っていくことでしょう。

児童下足室前の廊下の角に生けられた、中央の黄色い花は、ルピナスという名前です。冬を代表する切り花の一つで、花言葉は「いつも幸せ」です。この花言葉のような毎日を学校の全員が送れることを願っています。左の一輪の花は、アガパンサスです。一輪一輪が純白で、とてもさわやかです。また、後ろの枝ものはやはり生け花の見栄えをよくしてくれています。



花を愛でる。季節を愛でる。

環境づくり=人づくり。感謝しております。